

平成**16**年**3**月期

決算の概要と今後の展望

株式会社ソフトフロント
代表取締役社長 村田 利文
2004/6/4

証券コード： **2321** ヘラクレス
www.softfront.co.jp

- 平成**16**年**3**月期決算について
- 平成**17**年**3**月期業績見通しについて
- 事業戦略について

当資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断等の記載、又はその他の既に確定した事実に基づくもの以外の記載は、将来の業績についての見通しに関するものです。これらの見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には、様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる可能性がありますので、この業績予想に全面的に依存した投資等の判断は差し控え願います。

平成16年3月期決算について

資料中の数値は円単位の数値を百万円未満を切捨てし、また、パーセント表示は円単位の数値を基に算出した計算結果の少数点第1位未満を四捨五入して表示しております。

平成16年3月期 : 業績の概要

(単位:百万円)

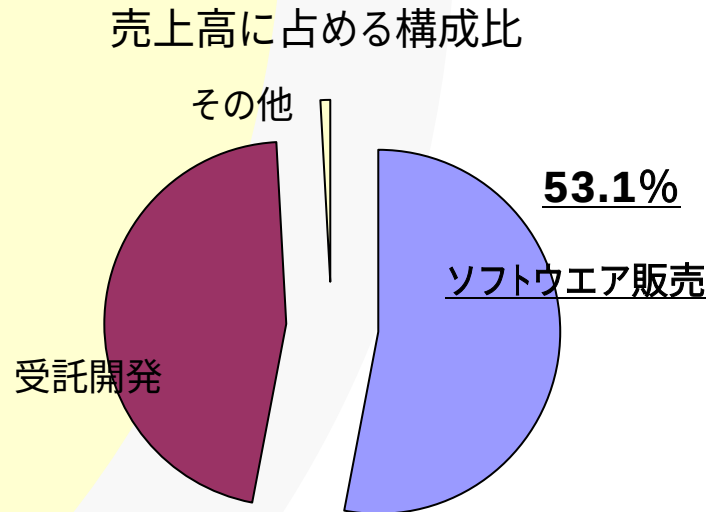
	H15/3期	H16/3期	増減
売上高	682	744	+61
営業利益	▲531	116	+648
経常利益	▲578	69	+648
当期純利益	▲1,155	92	+1,248

増収要因: SIPパートナープログラム事業の順調な立上がり

増益要因: ビジネスモデル転換による総費用削減

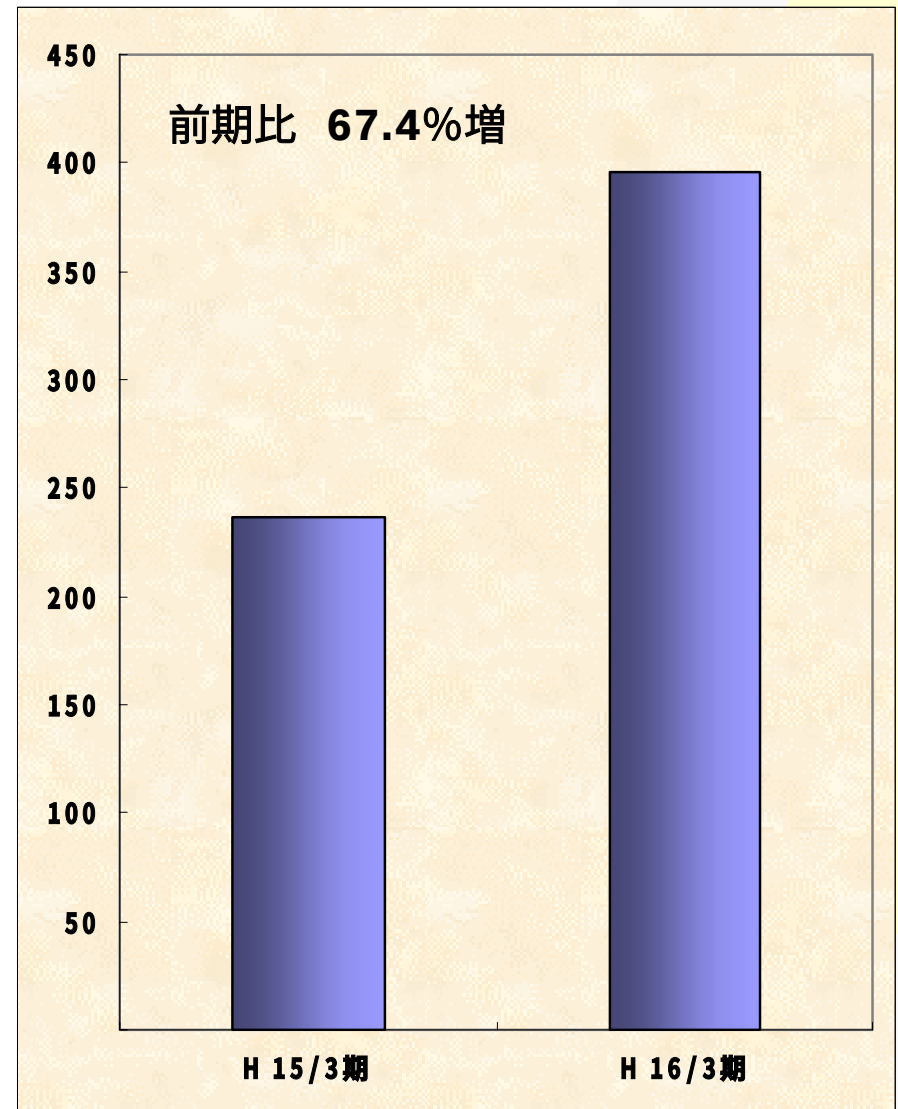
「ソフトウェア販売」の実績

(単位:百万円)



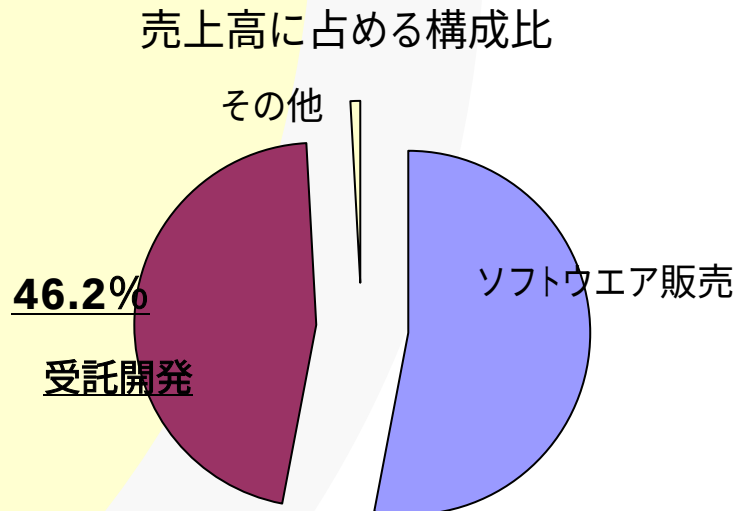
《変化の理由》

- **SIP**技術の市場拡大
- **SIP**開発環境へのニーズ増加
- 当社ビジネスモデルの転換
受託開発→開発環境提供主体へ
- ライセンシング・ビジネスの定着



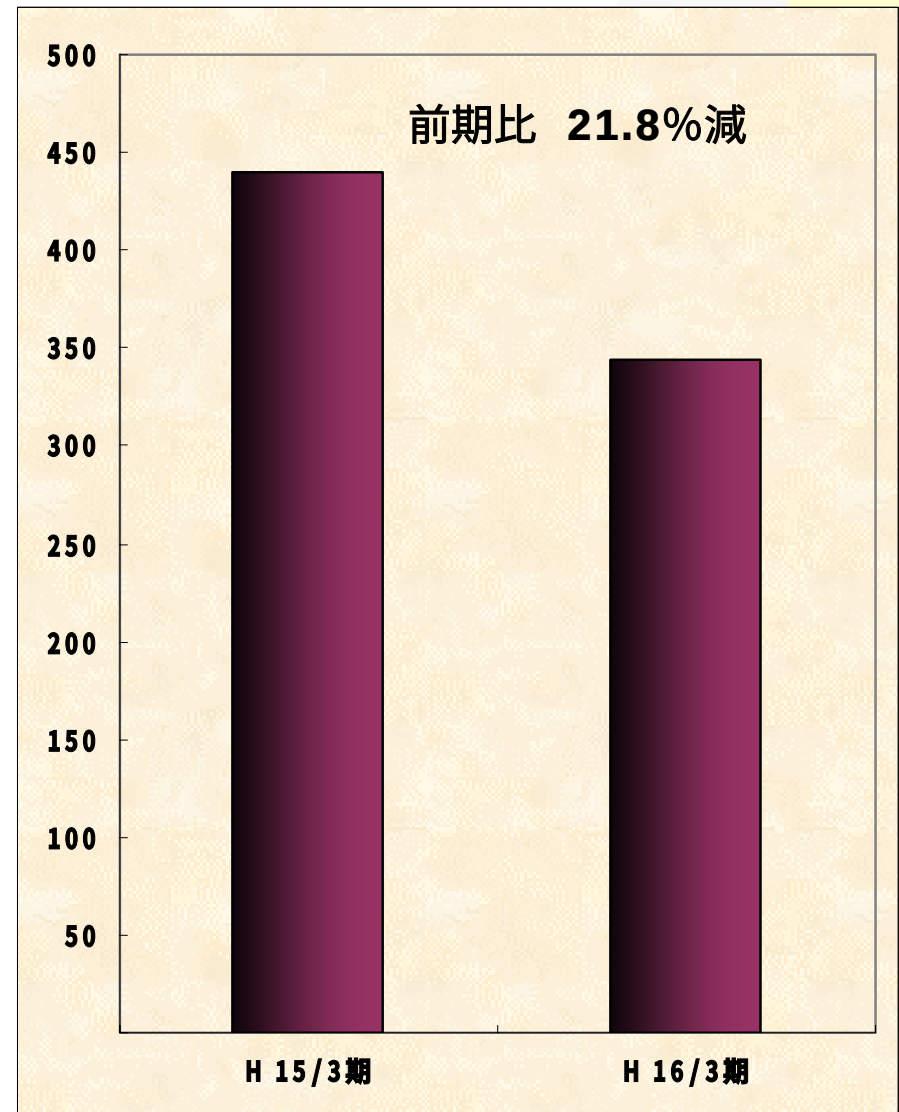
「受託開発」の実績

(単位:百万円)



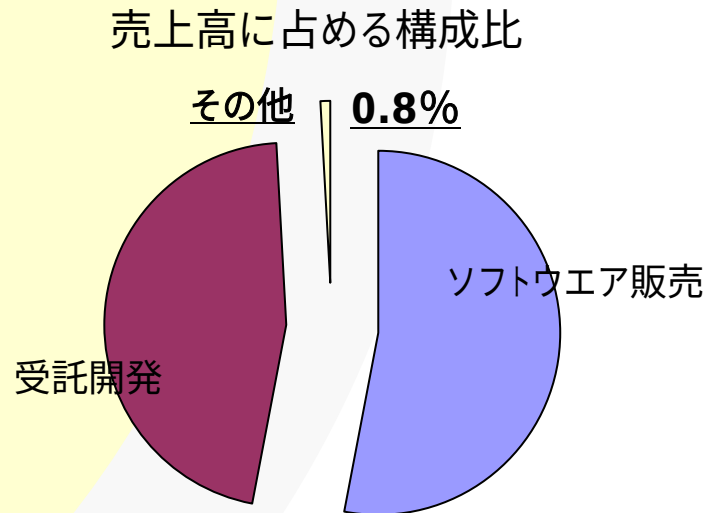
《変化の理由》

- ビジネスモデルの転換
受託開発→開発環境提供主体へ
- ライセンシングにまつわる高度・高付加価値な受託案件の確実な受注
- 継続的な**SIP**関連ソリューション案件の受注



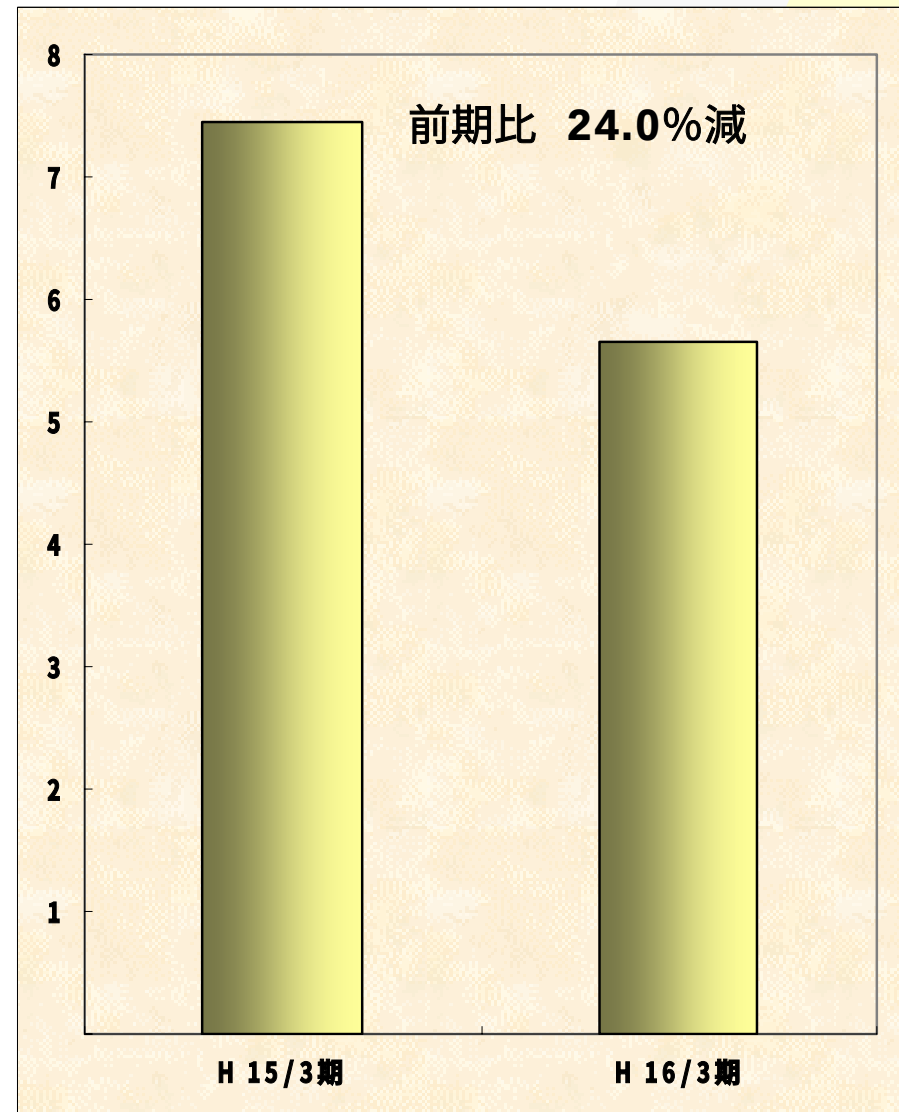
「その他」の実績

(単位:百万円)



《変化の理由》

- 物品販売の停止
ネット・ショップ閉鎖
- ビジネスモデルの転換
ライセンスビジネスへの経営資源集中



「営業損益」の状況

(単位:百万円)

	H15/3期	H16/3期	増減
営業損益	▲531	116	+648
売上高	682	744	+61
売上原価	335	242	▲92
売上総利益	347	501	+154
販売費及び一般管理費	879	384	▲494

《変化の理由》

- SPP事業推進による売上高増加 (前期比9%増)、及び原価率減少 (49%→33%)
- ビジネスモデル転換に伴う、人件費 (法定・福利厚生費を含む) の大幅減少
H15/3期：802M → H16/3期：393M (▲408M)

「経常損益」の状況

(単位:百万円)

	H15/3期	H16/3期	増減
経常損益	▲578	69	+648
営業損益	▲531	116	+648
営業外収益	12	8	▲4
営業外費用	59	55	▲3
(内、支払利息)	(11)	(6)	(▲4)
(内、地代家賃)	(6)	(46)	(+39)
(内、新株発行費)	(27)	(2)	(▲25)

《変化の理由》

- 人員減に伴い、余剰オフィススペース部分^(※)の地代家賃が大幅増加

※当該スペースは、平成16年3月末までに返却済

「税引前当期純損益」の状況

(単位:百万円)

	H15/3期	H16/3期	増減
税引前当期純損益	▲1,152	50	+1,202
經常損益	▲578	69	+648
特別利益	—	2	+2
特別損失	573	21	▲552
(内、固定資産除却損)	(0)	(5)	(+4)
(内、不動産中途解約手数料)	(-)	(11)	(+11)
(内、事業再構築費用)	(66)	(1)	(▲64)
(内、子会社営業休止損)	(506)	(-)	(▲506)

《変化の理由》

- リストラ関連費用の一巡に伴い、特別損失が大幅減少

「当期純損益」の状況

(単位:百万円)

	H15/3期	H16/3期	増減
当期純損益	▲1,155	92	+1,248
税引前当期純損益	▲1,152	50	+1,202
法人税等	3	1	▲1
法人税等調整額	—	▲44	▲44

《変化の理由》

- 平成**16**年**3**月末における繰延税金資産 (**44**百万円) の計上に伴い、同額の法人税等調整額が発生

「研究開発費・減価償却費」の状況

(単位:百万円)

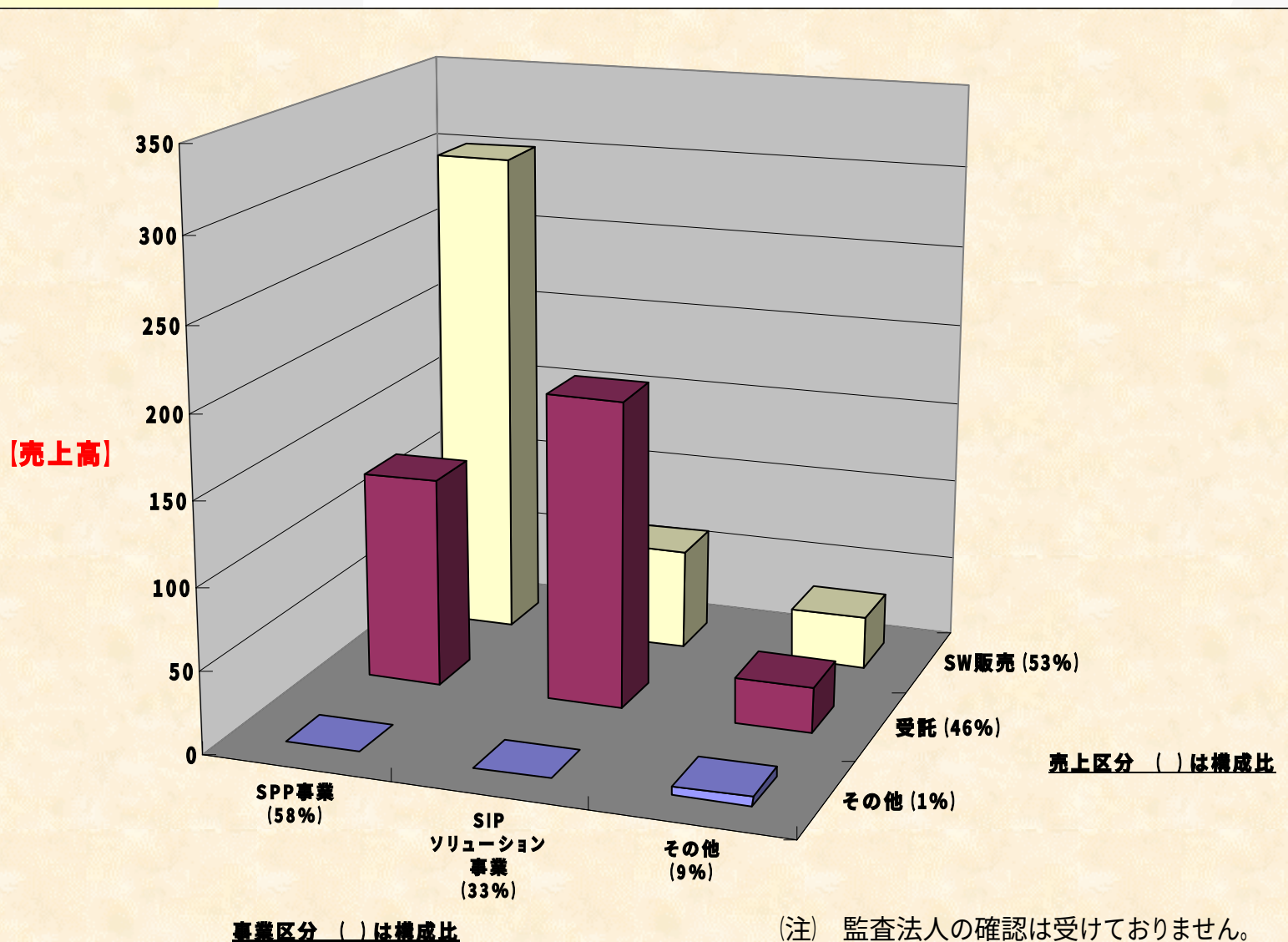
	H15/3期	H16/3期	増減
研究開発費	344	75	▲269
減価償却費	42	63	+21

《変化の理由》

- 研究開発費の減少は、**SIP**関連技術への経営資源集中による、研究開発の効率向上に伴うもの
- 減価償却額の増加は、**SIP**関連製品 (販売目的ソフトウェア) の資産計上額増加に伴うもの

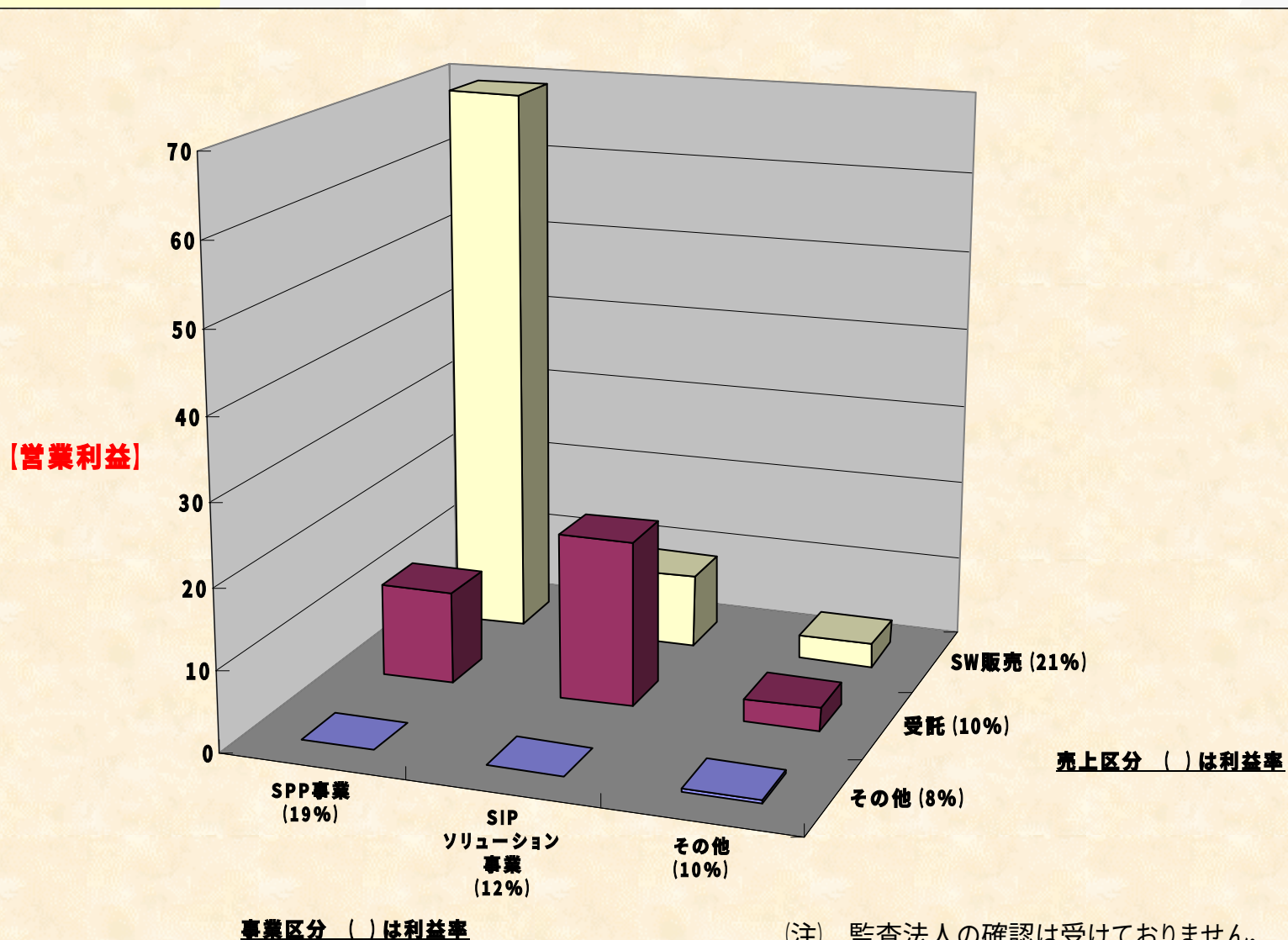
「事業区分・売上区分別 売上高」の状況

(単位:百万円)



「事業区分・売上区分別 営業利益」の状況

(単位:百万円)



平成16年3月期 ： キャッシュ・フローの概要

(単位:百万円)

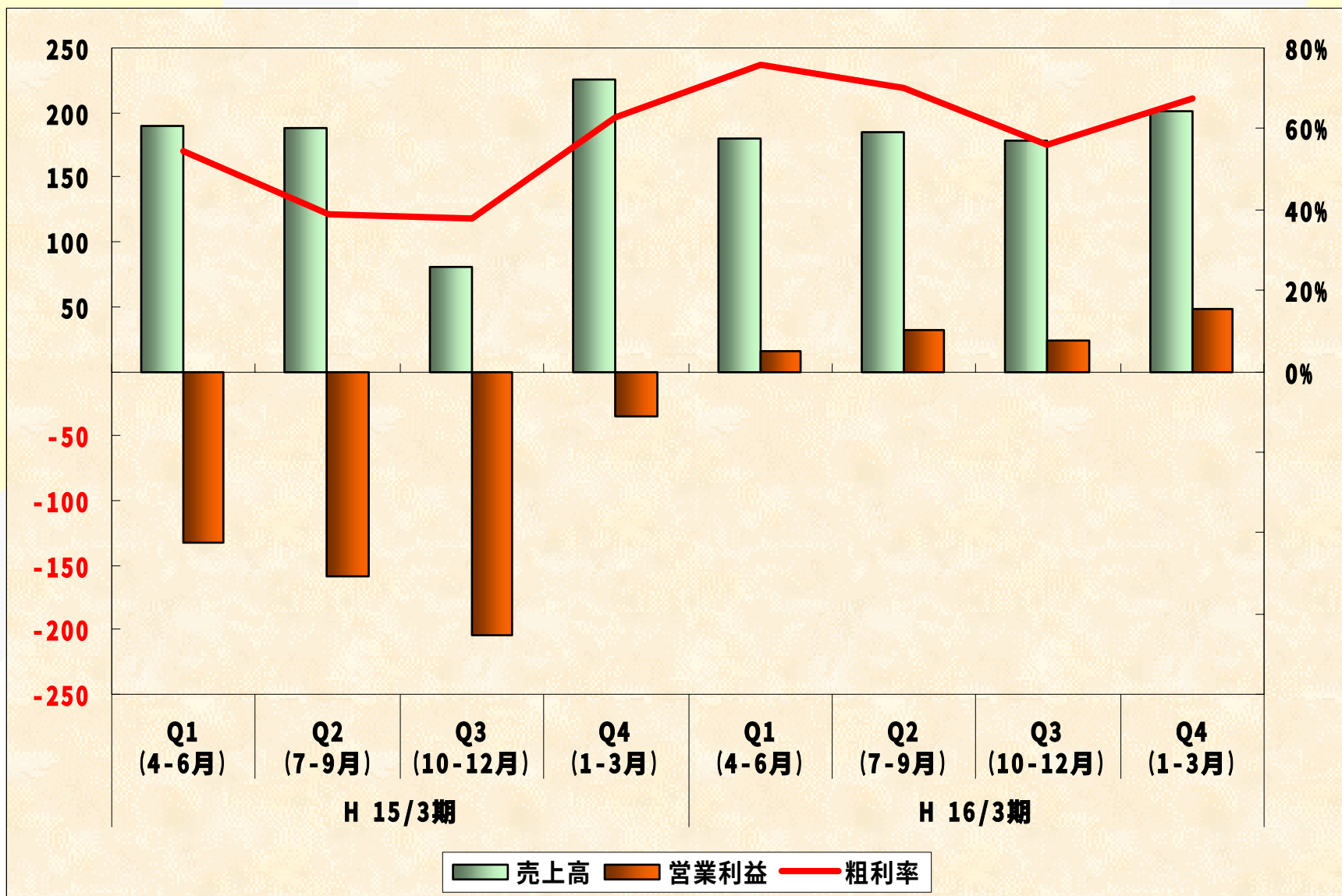
営業活動によるキャッシュ・フロー	＋ 64
税引前当期純利益	＋ 50
減価償却費	＋ 63
売上債権の減少	＋ 26
仕入債務の減少	－ 13
未払金の減少	－ 49
その他	－ 13
投資活動によるキャッシュ・フロー	－ 20
財務活動によるキャッシュ・フロー	－ 28
現金及び現金同等物の増減額	＋ 15
現金及び現金同等物期末残高	238
フリー・キャッシュ・フロー	＋ 43

(単位:百万円)

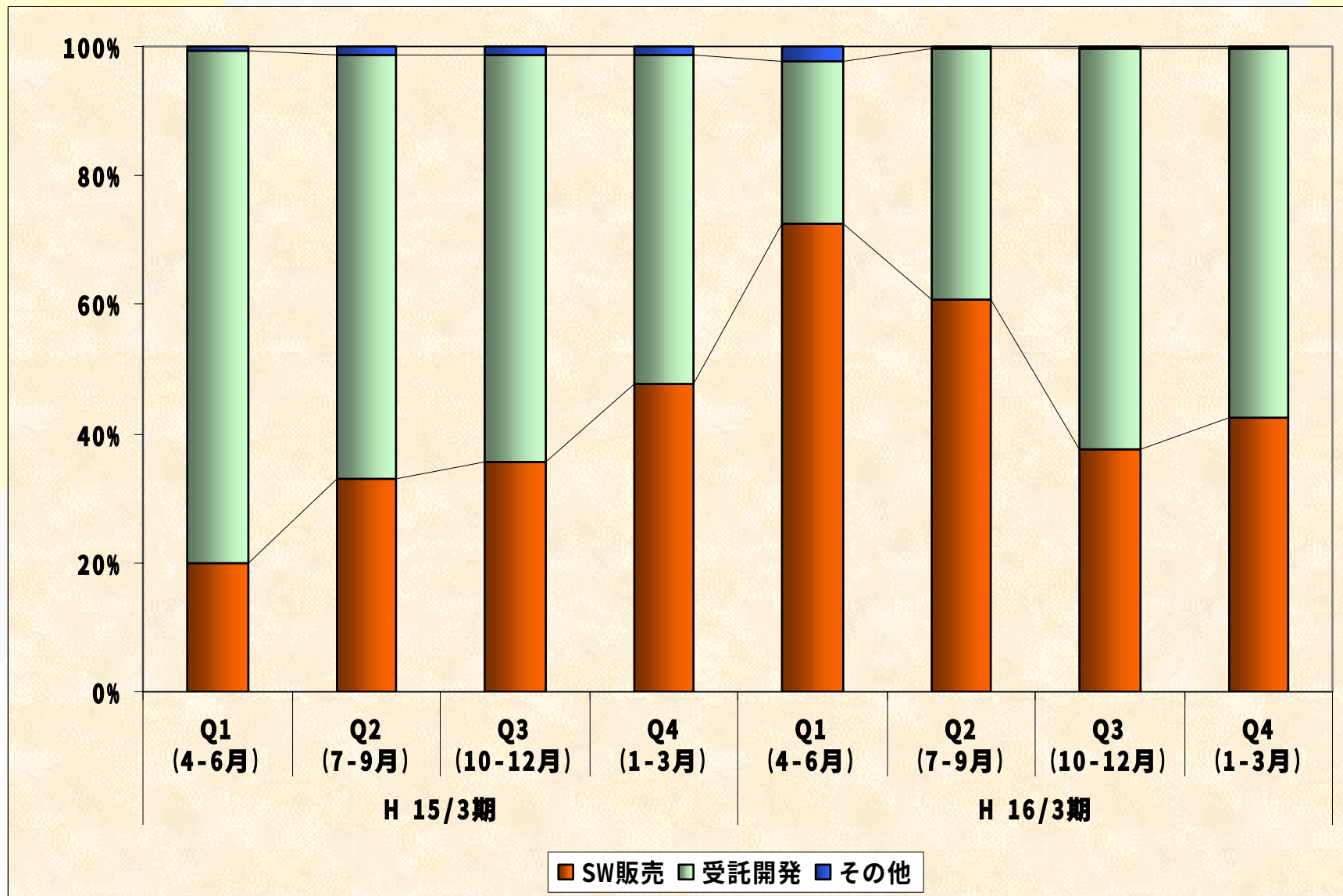
	H15/3期 第4四半期	H16/3期 第4四半期	増減
売上高	225	200	▲24
営業利益	▲35	47	+83
経常利益	▲37	36	+74
当期純利益	▲116	65	+182

売上高・営業利益・粗利率の推移 (四半期単位)

(単位:百万円)



売上区分比率の推移 (四半期単位)



平成17年3月期業績見通しについて

資料中の数値は円単位の数値を百万円未満を切捨てし、また、パーセント表示は円単位の数値を基に算出した計算結果の少数点第1位未満を四捨五入して表示しております。

平成17年3月期 : 業績見通し (通期)

(単位:百万円)

	H16/3期 (通期/実績)	H17/3期 (通期/見通し)	増減	前期比
売上高	744	870	+125	+16.9%
営業利益	116	135	+18	+15.7%
経常利益 (経常利益率)	69 (9.4%)	120 (13.8%)	+50 (+4.4ポイント)	+72.4%
当期純利益	92	120	+27	+29.1%

※平成17年3月期「当期純利益」業績見通し**120M**は、繰延税金資産の純額(増減)を考慮しておりません。

平成17年3月期 : 研究開発費・減価償却費の見通し (通期)

(単位:百万円)

	H16/3期 (通期/実績)	H17/3期 (通期/見通し)	増減	前期比
研究開発費	75	122	+47	+62.6%
減価償却費	63	89	+25	+40.1%

事業戦略について

企業理念と経営目標

- 経営理念（私たちの存在意義）
「ネットワーク・コミュニケーションの世界をリッチにする」
 - **IT社会の変革への牽引役・技術の提供者として社会に貢献**
- 行動指針
社会環境の変化（ユビキタスネットワーク社会の実現等）に対応し、**SIP**を活用した **end-to-end**（人と人、機器と機器、人と機器）のネットワーク環境を実現
- 経営ビジョン
「当社**SIP**技術をデファクトスタンダードにする」

収益活動

SPP事業 -- SIP Partner Program (SPP)、ライセンス販売の拡大

- 1) ライセンシング
- 2) サポート、コンサルテーション
- 3) 受託開発

SIPソリューション事業 -- 既存顧客に対するソリューション提供
その他

市場牽引活動 -- 技術力を通じて、社会の牽引役を

コンソーシアム活動 -- **VoIP**推進協議会、**UOPF**、
安心・安全インターネット推進協議会、
ENUMトライアルジャパン、**WIDE Project**、
総務省「デジタル情報家電のネットワーク化に
関する調査研究会 技術**WG**」(委員)
などへの積極的参加、技術提供。

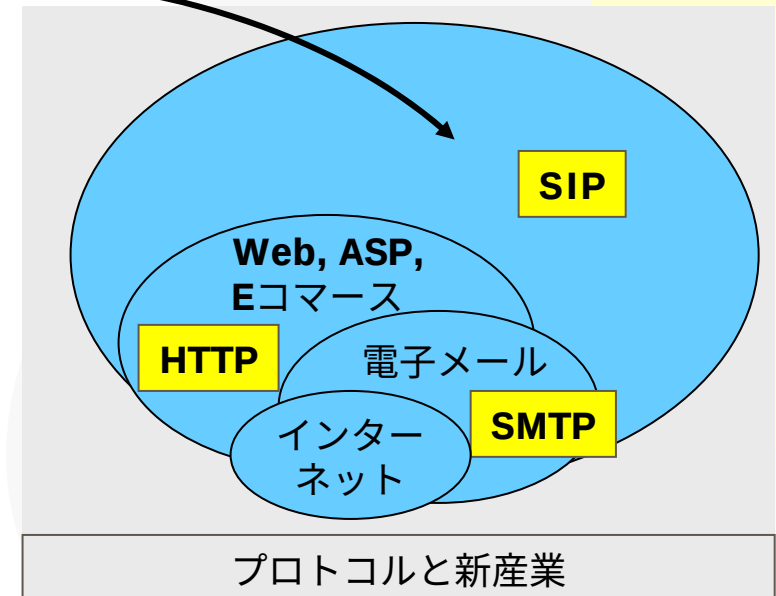
啓蒙活動 -- 英文仕様書の翻訳・公開、技術書執筆など

ユビキタスネットワーク社会

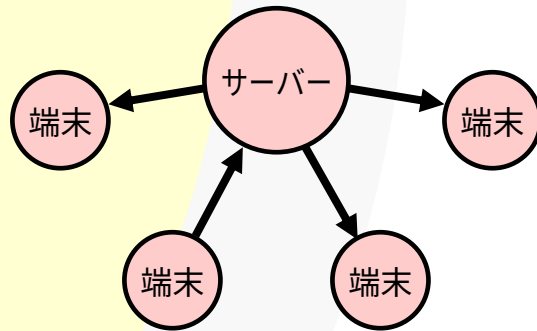


SIPとは何か - インターネット第3のプロトコル

- インターネットは新プロトコル (通信の規約) の普及によって成長。
 - “SMTP” → 電子メール。
 - “HTTP” → Web, Eコマース, ASP
- “**SIP**” (Session Initiation Protocol)
→ **End-to-End**のマルチメディア・コミュニケーション
- **VoIP**での応用
 - **IP**電話、**TV**電話、ビデオ会議などで使われるサーバ、端末
 - コールセンター、企業内電話システム、セントレックスサービス等のシステム
- **VoIP**以外での応用
 - チャット (インスタントメッセージ)
 - プレゼンス (状態検知と通知)
 - 家電などのリモート制御

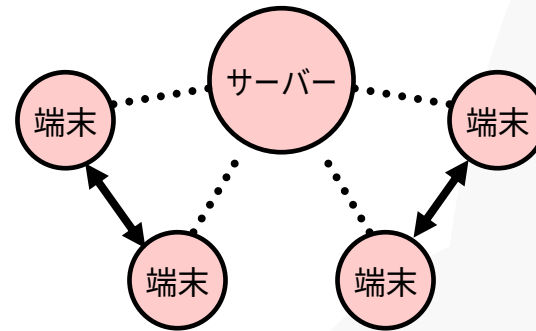


SIPはどのように使われるか



〔サーバー集中型〕
電子メール、Webなど

- 通信に時差
- 相手がいてもいなくても
- サービスはサーバーが決める
- 負荷がサーバーに集中



〔End-to-End型〕
SIPを利用した通信

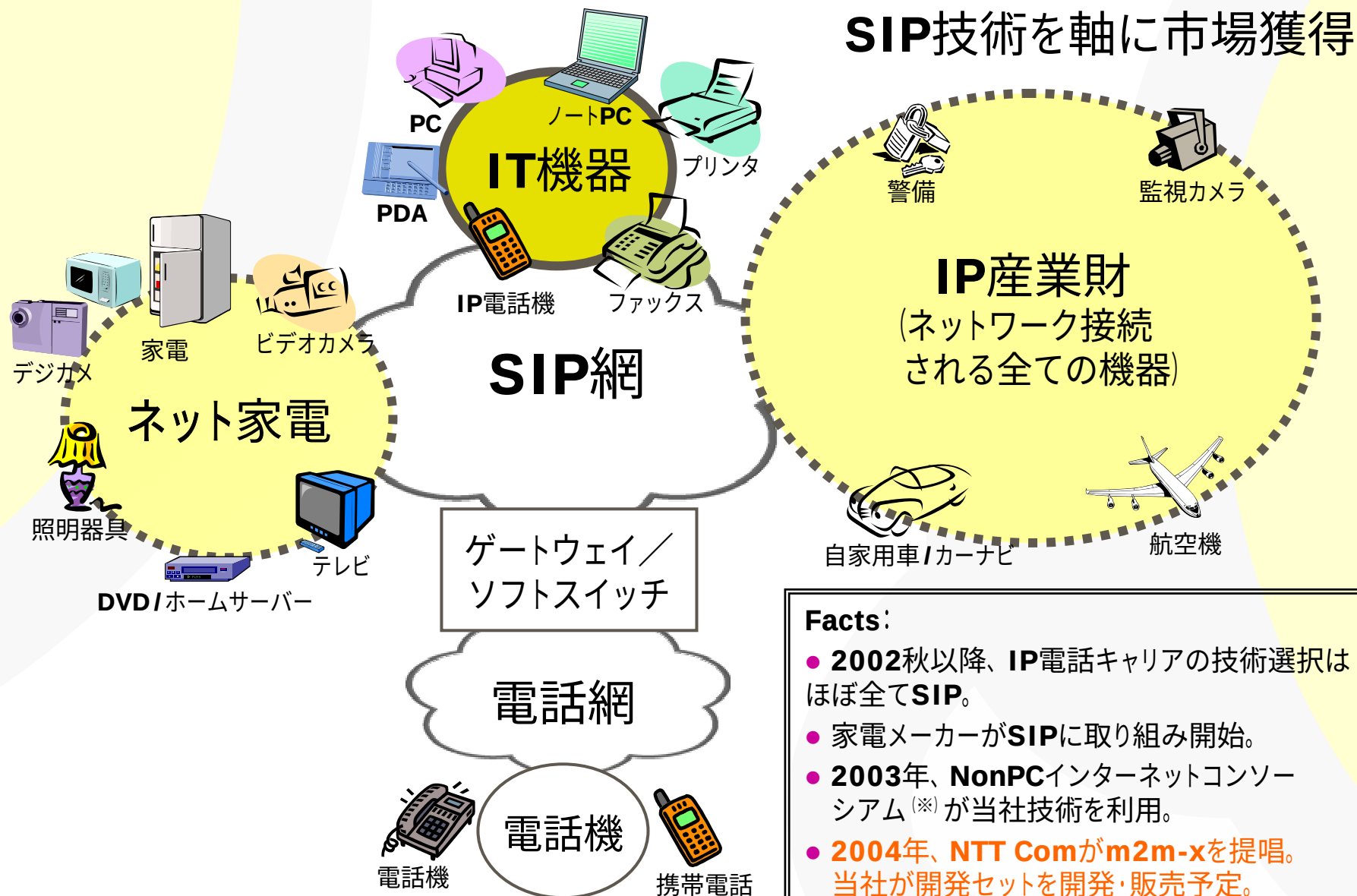
- 通信は実時間
- 相手のありか、状態をサーバーによって知る
- 端末同士で何をどうやり取りするかを決められる
- 負荷は分散

SIPはインターネットの特長を活かした、**実時間**の、**マルチメディア**を含む、新しい通信サービスを**安価**に提供できる。

認証・セキュリティについては、端末認証技術を活用し、**移動先での安全な接続**も可能に。

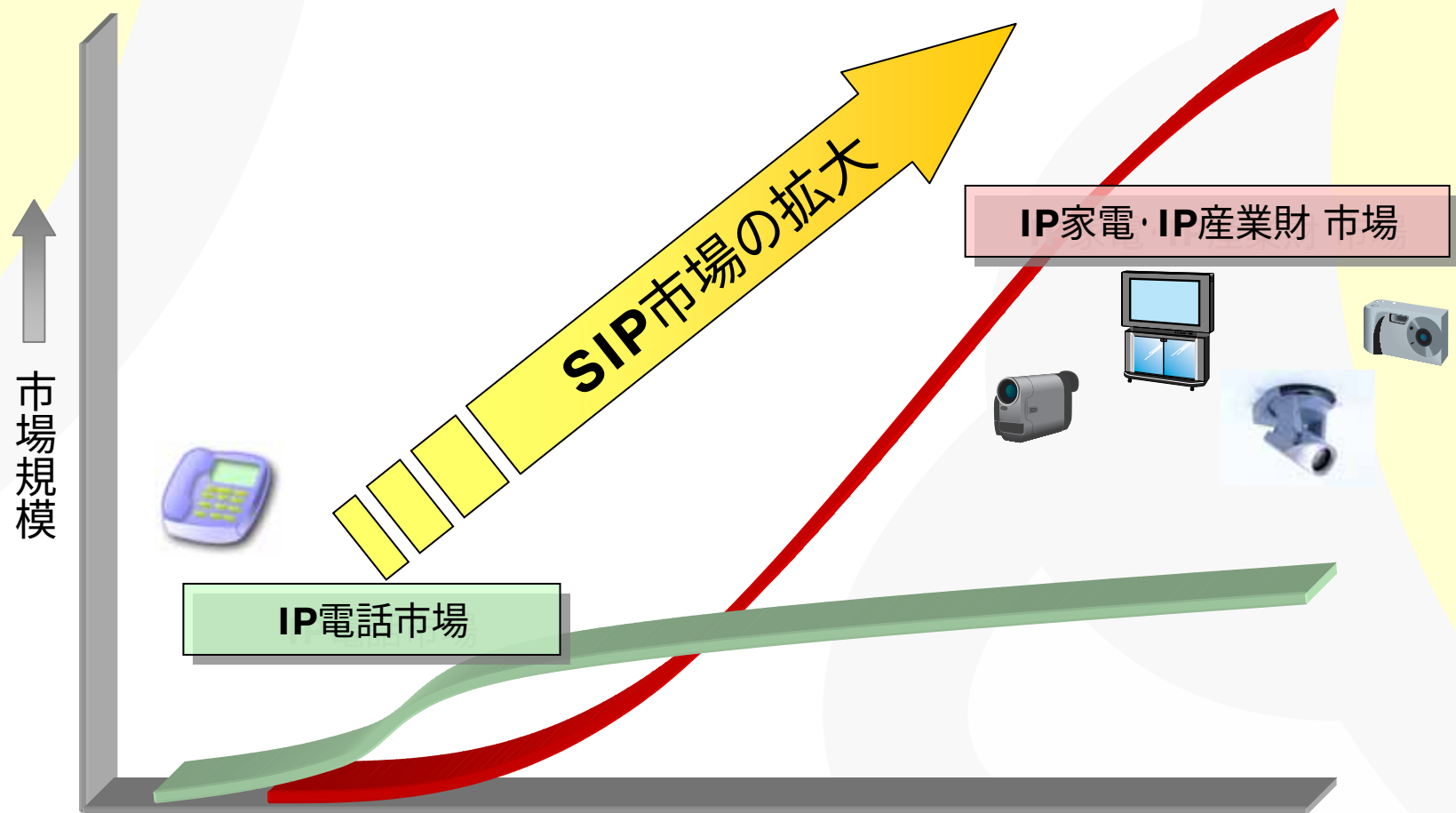
- 局内交換機の代替のサーバーに
- 企業・家庭の接続機器やサーバーに
(構内交換機の代替を含む)
- 企業・家庭の**PC**上の端末ソフトに
- 電話端末機に
- **PDA**、携帯電話などに
- ネット家電に
- 工業・産業向けのネット対応機器 (**IP産業財**) に

当社の事業フィールド

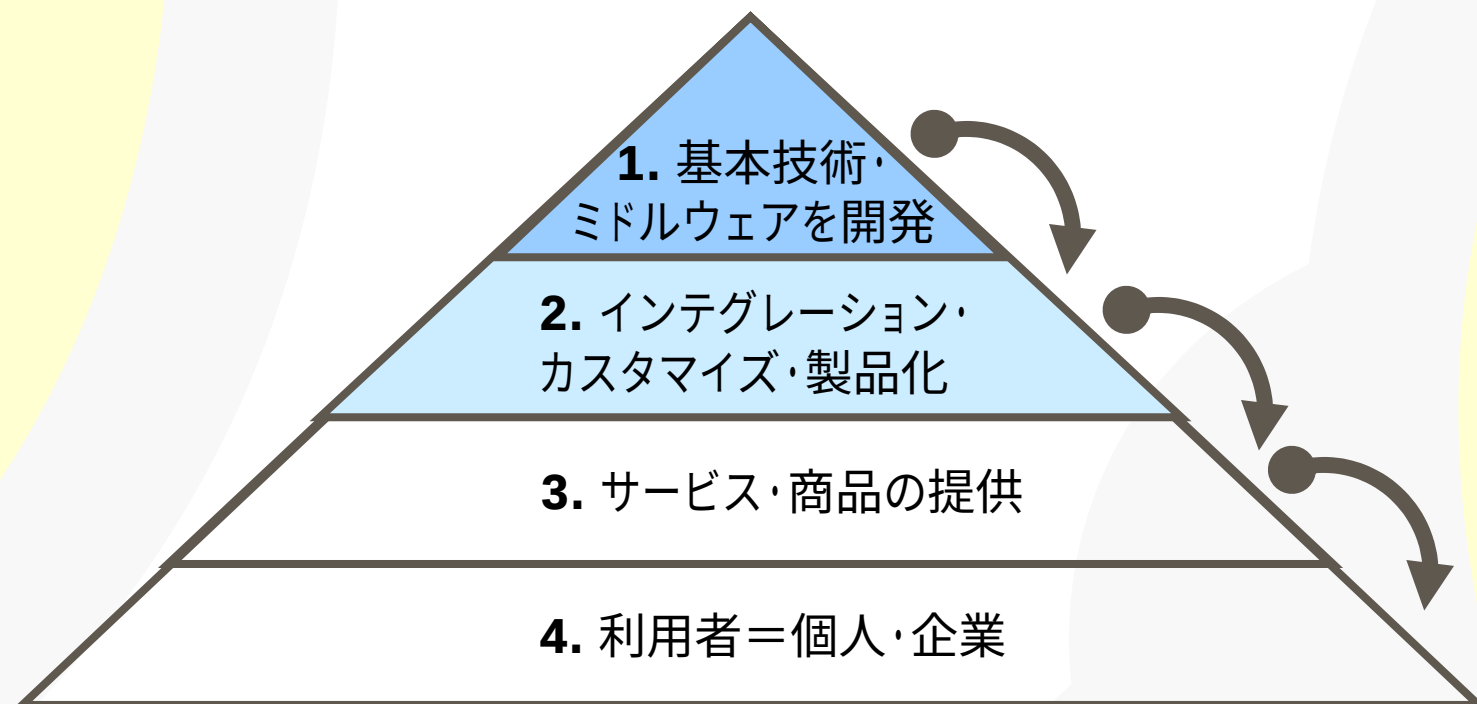


※ NonPCインターネットコンソーシアムは2004年春、メガコンソーシアムと合体し、BBジャパンになっております。

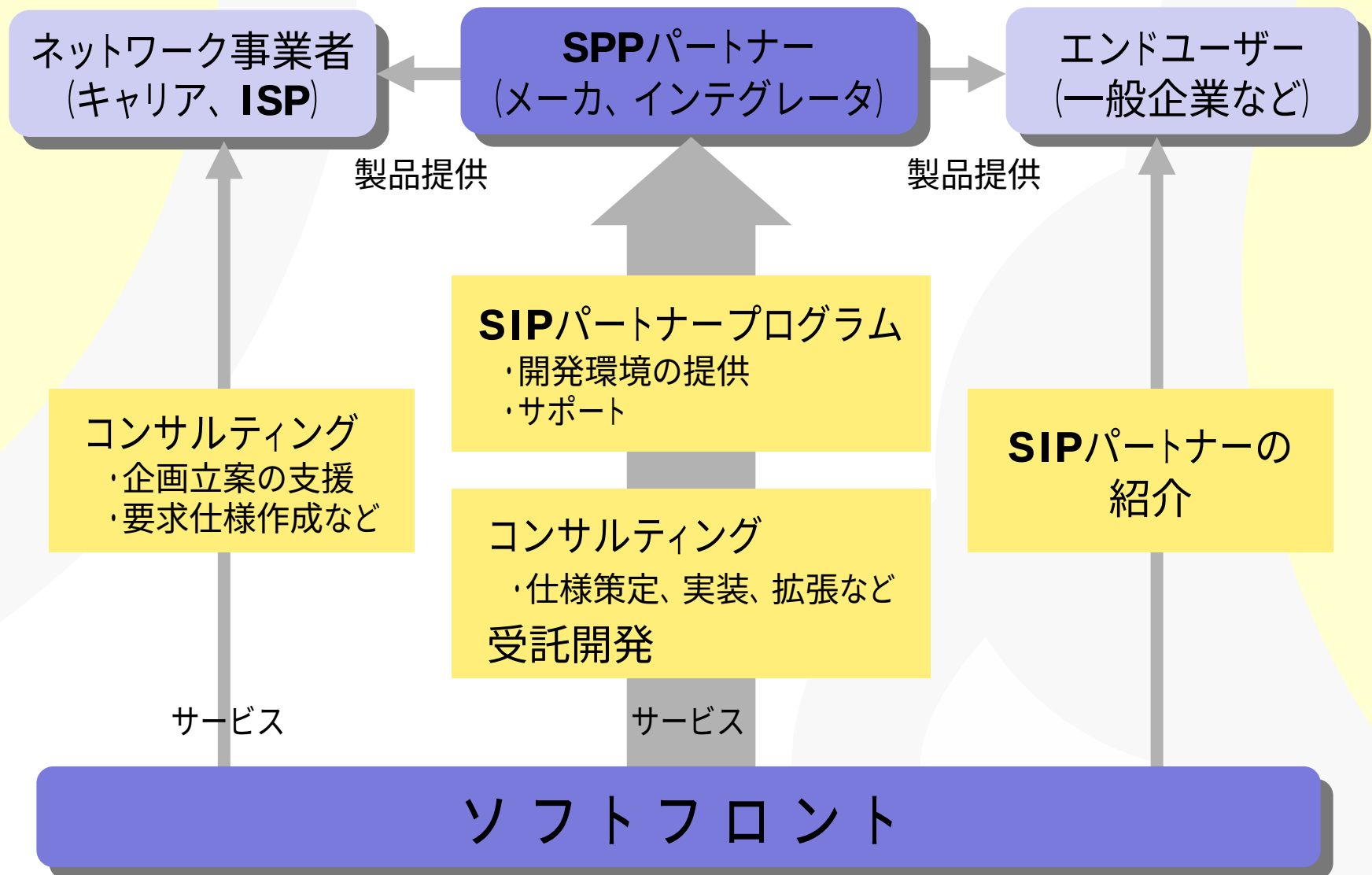
- SIP製品の中心はIP電話からIP家電・IP産業財へ



ソフトフロントは基本技術とミドルウェアを提供



- ソフトフロントは **1** に注力。
- ミドルウェア (**OS**とアプリケーションの中間に位置するソフトウェア) を開発企業にライセンスングする。



SIPパートナープログラム (SPP) のタイプ

名称	対象業種	契約形態		特徴
		開発 ライセンス	商用 ライセンス	
プロジェクト エディション	● Winアプリ 開発企業 ● IP電話システム 開発企業	SPP 基本契約 <年間の開発者 による使用権>	SPP ライセンス契約 <製品ごとの 複製配布権>	Win上の開発向け
エンベッデッド エディション	● 組み込み機器 開発企業	SPP 基本契約 <年間の開発者 による使用権>	SPP ライセンス契約 <製品ごとの 複製配布権>	組み込み機器開発向け
プレミアム エディション	● 全ての 開発企業	SPP契約 <使用権+複製配布権>		年間の商用化の際の 複製配布件を含む

參考資料

株価 (月足) の推移

